

調査・研修等計画届出書

令和 7年 8月 8日

瀬戸市議会議長 様

議員名 新井 亜由美

政務活動として、下記のとおり調査・研修等を実施いたします。

記

期 日	令和7年8月12日から8月13日まで（2日）	
調査先・研修名	よくわかる市町村財政分析 基礎講座	
会場名（会場所在地）	オンライン参加（自宅）	
調査・研修の目的 （今回の調査・研修に係る瀬戸市・自己の現状と課題を踏まえて）	総務省によって公表されている自治体の財政データをもとに、「決算カード」や「類似団体比較カード」の読み方を学び、項目や数字が何を表しているのかを理解した上で、財政分析ができるスキルを身につける。 本市の財政資料から、経年での変化を比較、類似団体と比較を行うことで財政状況や課題を把握していく。	
議長名の依頼	不要	依頼先（名称）
同行者名		

※行程表を添付してください。

調査・研修等報告書

令和7年9月10日

瀬戸市議会議長 様

議員名 新井 亜由美

政務活動として、下記のとおり調査・研修等を実施したので報告します。

記

期 日	令和7年8月12日から8月13日まで（2日）
調査先・研修名	よくわかる市町村財政分析 基礎講座
会場名（会場所在地）	オンライン参加（自宅）
調査・研修の目的 （今回の調査・研修に係る瀬戸市・自己の現状と課題を踏まえて）	総務省によって公表されている自治体の財政データをもとに、「決算カード」や「類似団体比較カード」の読み方を学び、項目や数字が何を表しているのかを理解した上で、財政分析ができるスキルを身につける。 本市の財政資料から、経年での変化を比較、類似団体と比較を行うことで財政状況や課題を把握していく。
研修で学んだこと・キーワード等	
<p>同講座は、3回目の受講になり、毎回必ず最初に確認する次のことを今回も改めて胸に刻んだ。</p> <p>財政を学ぶ意義は、「市民の暮らしが数字にかかっている」、財政を学ぶことで「市民の要求を実現するための武器」を持つことになる。そして財政分析の手法として、「経年比較」と「類似団体比較」があり、数字は比べてこそ意味がある。</p> <p>繰り返しの受講で、歳入については理解が進んできたため、今回は歳出についての理解を深めることに主眼を置いた。</p> <p>参加者全員が、総務省が公表している令和5年度のそれぞれが暮らしている自治体の決算シートを用意して講義は進められた。「経年の比較が必要」と頭では分かっているも、実際にはそれができなかったが過去の決算シートも手元にあり、振り返りながら講義を聞くことができた。</p> <p>私は、決算の時に、財政調整基金と実質収支額と実質収支比率にいつも注目している</p>	

が、過去の数字をグラフにしてみると今まで気づかなかったことが見えてきた。過去10年（2024年～2014年）を振り返り、単年度収支と実質単年度収支の両方が、マイナスになった年は4回あり、マイナスは2億円～3億円であったが翌年からはプラスに転じている。

財政調整基金については、2014年をピークに下がってきていたが、2015年に財政規律ガイドラインを定め標準財政規模の15%を目標に積み立てることにした。初年度の2015年からコロナの影響があったと考えられる2020年以外は、2022年までは約15%で推移していたが、2023年は17.5%、2024年は22.6%と急激に増加していることが分かった。2024年は目標の15%よりも7.6ポイント高く金額にすると20億7千万円多く積み立てられていた。

実質収支比率で言えば、コロナ以降は8%台と高いパーセンテージを推移している。実質収支比率については、愛知県平均や類似団体と比較するとほぼ同じパーセンテージでもあるが、だから「適切」と考えるのではなく、当局との議論が必要であると講師は繰り返していた。

調査・研修の成果・考察

(瀬戸市への反映・自己の能力開発への寄与等)

毎年、本市の財政状況を担当課から説明を受け、自分なりに過去や類似団体と比較し分析できるようになりたいと思い繰り返しの受講をしている。

「瀬戸市はお金がない」と市民の皆さんからも職員からも聞かすが、議員としてその時に適切に事実と自分なりの解釈を伝えられるようになりたい。数字は変わらない事実であるが、その数字をどうとらえるのかは、自ら学び職員さんとも議論を繰り返していかなければ得られないものであり、それが議員の役割でもあると感じている。

収めた税金がどんな使われ方をしているのか。安心して暮らすために叶えてほしいことがある。市が進めている事業は本当に必要なのか。市民の皆さんの疑問に答え、願いに応えられる瀬戸市政にしていくために引き続き財政の学びを深めていきたい。